SDGs スタートアップ研究分科会 アドバンスコース第 3 回情報交換会実施報告

2023 年 12 月 20 日PMI 日本支部SDGs スタートアップ研究分科会アドバンスコース・リーダー 歳弘 浩三

去る 11 月 25 日(土曜)、SDGs スタートアップ研究分科会のアドバンスコース第 3 回情報交換会を 開催しましたのでご報告いたします。

アジェンダは次の通りです。

- 1. 2023 年度 SDGs スタートアップ研究分科会の概要
- 2. アドバンスコース参加団体の情報交換
 - a. 舞鶴工業高等専門学校 (舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム)
 - b. 株式会社カルティブ(企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム)
 - c. 有限会社ウイルパワー(循環ビジネスの社会的役割の実施)
 - d. 高野山真言宗[大師教会] 和歌山教区<三密教会>(生活の継続が保証される町づくり)
 - e. 株式会社インフォテック・サーブ (iCD 活用で SDG s を達成)
 - f. ブルージョブズ株式会社(SDGs×広報応援プロジェクト)
 - g. ネクシア合同会社(自然治癒力を引き出す運動を通して健康的なカラダを創造する 未来社会の実現)
- 3. フリーディスカッション

各項目の概要をお伝えします。

1. 2023 年度 SDGs スタートアップ研究分科会の概要

·SDGs スタートアップ研究分科会

PMI 日本支部は、SDGs 達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発・普及を図るために、2019 年 10 月から内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に「SDGs スタートアップ研究分科会」を設けています。

本年度は、昨年度に引き続き SDGs プロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際に事業として行っている SDGs プロジェクトを支援する「アドバンスコース」の二本立てで実施しています。

「ベーシックコース」については本年も 10 月開始として、すでに参加団体の募集を開始しています。詳細は次のウェブサイトをご覧ください。

2023 年度「SDGs スタートアップ研究分科会-ベーシックコース」参加団体募集のご案内 - SDGs

スタートアップ研究会 (pmi-japan.org)

・ 10 月 14 日(金)、2023 年度 SDGs スタートアップ研究分科会のベーシックコース コース 第 1 回 (キックオフ) の会合を開催しました。 11 団体が申し込み、当日も多くの地域から 多様な業種の近くの方々13 名に参加いただきました。

<u>2023</u> 年度ベーシック コース キックオフ 実施報告 - SDGs スタートアップ研究会 (pmijapan.org)

アドバンスコースの開催

本年度のアドバンスコースは、原則として 2019 年度、2020 年度、2021 年度、2022 年度のベーシックコースに参加された団体で実際に実行されている SDG プロジェクトを対象としていますが、すでに SDGs 事業を開始していて、基本的なプロジェクトマネジメントの知識をお持ちの場合は、途中参加もご相談に応じます。

図1にアドバンスコースの位置づけ、スケジュールを示します。

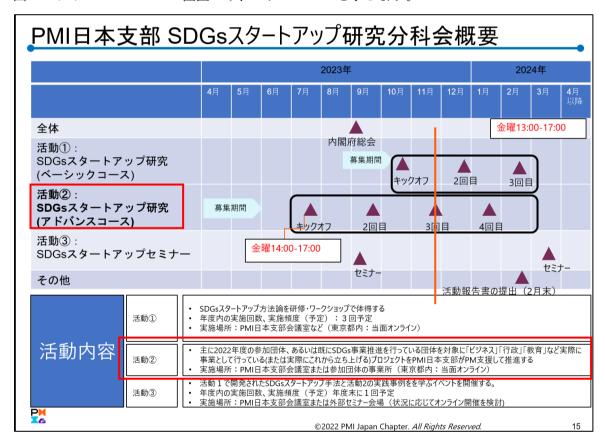


図1 アドバンスコースのスケジュール、活動内容

2.アドバンスコース参加団体の情報交換

現在アドバンスコースに参加されている7団体のSDGs 取組み事例を紹介していただきました。

a. 舞鶴工業高等専門学校(舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム)

(報告:舞鶴工業高等専門学校、高専機構本部 内海康雄氏)

『北近畿における地域課題の 解決による地方創生』

- ・従来からの「小規模河川の水位監視システム」に加えて、北近畿の「地域プラットフォーム」 づくりに取り組んでいる
- ・SDGs スタートアップ手法の活用とその印象として、リーンキャンパスはソフトウェアに限らず、様々な事業の構想をまとめられる。実現計画を策定するためにロジックモデルが有効で、優先課題を決定し、ビジョンからバックキャスティングで中間成果に展開する、事業活動のアウトプットと関連付けて、実現のシナリオを確認することに役立つ。自治体に現状認識と将来構想があることが必要(場があること)で、小規模自治体がすべての課題に取り組み、課題解決のプロジェクトの立案・実施ができるのかなど自治体間の連携が必要。
- ・実際の活動:「IT 漁業と北近畿の地域プラットフォームの構築」

産学公民金報の連携プラットフォームづくりを実践

地域の産学公民金報の連携の場 対象地域:北近畿の5市2町

- ○代表機関(事務局) 舞鶴工業高等専門学校
- ○幹事自治体(自治体取まとめ) 舞鶴市
- ○幹事機関(個別プロジェクト推進) KDDI㈱、㈱KDDI 総合研究所
- ○連携機関:京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会、北近畿地域連携機構

b. 株式会社カルティブ(企業版ふるさと納税を活用した地域課題解決プラットフォーム[river])

(報告:株式会社カルティブ 企業版ふるさと納税コンサルタント 小坪拓也氏)

- ・[river (リバー)]という地域課題解決プラットフォームで、「企業版ふるさと納税の活用を 目指す自治体と企業が、制度を活用するためのサービス」を提供しています。
- ・「省庁連携」の状況
- ①「地域の人材支援」のセミナー(朝 10 時から、1 回 30 分のオンライン開催)を来年 1 月から 6 回開催する計画を立てている。インターン生(修士院生)の報告書として整理する予定。
- ②環境省との取り組み:地域脱炭素チーム、OECM(自然共生サイト)チームが政策の1つのとして「企業版ふるさと納税」に取り組んでいく。
 - ⇒OECM 認定自治体に対して企業版ふるさと納税を行うと、その企業に対して環境省が貢献 証書を発行予定

脱炭素の事例紹介イメージ

参考:

企業版ふるさと納税 | 佐賀市公式ホームページ (saga.lg.jp)

バイオマス産業都市さが これまでの取組 | 佐賀市公式ホームページ (saga.lg.jp)

- ③中間支援団体(官民共創支援組織)の調査業務受託:デジタル田園都市国家構想における地方 創生テレワークの推進事業
- ④企業版ふるさと納税の市場調査
 - ・自治体向け・企業向けそれぞれに企業版ふるさと納税のアンケートを実施

⑤企業版ふるさと納税実施に関する企業向け営業を実施中:単月1億円の寄付流通を年度内に 実現することが目標。

c. 有限会社ウイルパワー(循環ビジネスの社会的役割の実施)

(報告:有限会社ウイルパワー 代表取締役 江川 健次郎氏)

- ・プロジェクトテーマは、循環ビジネスの社会的役割の実施で、
- ・ブックオフとの不要品貿易を通じた広域連携事業
- ・また事業再構築補助金の入金遅れ(報告書の修正に追われている)や体調不良の影響もあり、 営業活動が停滞気味。
- ・11/18-19 に「恋する秋の収穫祭 2023」において不要品寄付のイベントを開催した。
- ・PMIのこの関係性や議論できる環境はありがたく感じている。

参考:



おかやまNPOセンター・KOTOMO基金 不要品寄付のイベント





d. 高野山真言宗[大師教会] 和歌山教区<三密教会>(生活の継続が保証される町づくり)

(報告:高野山真言宗「大師教会」 和歌山教区<三密教会> 淺田慈照氏)

三密教会とは:三密教会正式名称:高野山真言宗大師教会和歌山教区三密教会

・(活動休止により報告事項なし)

e. 株式会社インフォテック・サーブ (代表:橋爪修氏)

(報告:株式会社インフォテック・サーブ 志村氏)

テーマは:iCD 活用で SDGs を達成 主要なゴール 8: 働きがいも経済成長も

- ・タスクディクショナリとスキルディクショナリの紐づけで働き甲斐と成長も実現。
- ・10/18 の第三回打ち合わせで、リーンキャンパスからアウトプット・アウトカムから

ソリューション及び新しい価値提案の検討を実施。

- → チャレンジする社員がモチベーションを上げられる評価の仕組みを提供したい。
- → チャレンジを評価する制度の検討。
- ・11/22 の第四回打ち合わせで評価の具体的な指標の策定を詰めている。
 - → 「ワクワクした組織チェックリスト」の作成に着手。 ドラフトのテーラリングの方向性を討議。
 - → 今年度中にロジックモデル検討に着手できることが目標。

注:iCDとは:ITを利活用するビジネスに求められる業務(タスク)と、それを支えるIT人 材の能力や素養(スキル)を体系化したもの

f. ブルージョブズ株式会社 (代表:橋本滋氏)

(報告:PMIJ・早川氏代読)

テーマは:SDGs×広報応援プロジェクト

事業内容:WEB製作、メディア製作、SDGs事業の3本柱としています。

SDGsに取り組む中小企業の広報応援隊を目指しています。

- ・これまでやってきたこと:基本は学習主体
- ・2023年度から「SDGs スタートアップ方法論」が使えるかを検証し始めた。
- → 自社のベネフィットを考えると社会課題でなく、ビジネス課題になっている。
- ・ブルージョブズの現在の取り組み
 - ① 中堅企業への SDGs 研修
 - ② 中小企業向け SDGs 新規ビジネスサポート
- :具体的には SDGs 課題と自社のビジネスのマッチングを図るAIツールの開発が念頭にある。
- → 改めてプロジェクトとして、SDGs スタートアップ方法論を使って何をやるのか、その答えを 出していきたい。
- g. ネクシア合同会社 (代表:武藤淳子氏)

(報告:ネクシア合同会社 代表:武藤淳子氏)

テーマは;自然治癒力を引き出す運動を通して健康な体を創造する未来社会の実現

・ネクシア合同会社の企業理念・ミッション

ネクシア合同会社は「自然治癒力を引き出す運動を通して健康的なカラダを創造する」ことで社会に貢献します。

- ・リーンキャンパスの整理にあたって、ターゲットや価値観の整理を行っている。
 - → ターゲット:がんサバイバー(本人だけでなく周囲の家族も含む) 価値観:運動に対する価値や意識のシフトチェンジが必要。 (運動≠スポーツ、生涯続けられること)
 - → 体温を上げて自然治癒力を引き出す運動の普及を考えていきたい。
- ・がん対策研の予防研究エビデンスを基に、「がんに運動が効果的」という A4 枚の資料を作

成した。

→ 武藤氏の強みの情報と併せて広めていきたい

4. フリーディスカッション

アジャイルコーヒーでその場の参加者でアジェンダを決めるリーンコーヒー形式のフリーディスカッションを行い、参加団体からのテーマを基に示唆に富んだディスカッションをおこないました。 いろいろな話題や意見が出て有益な時間でした。



本件についてご関心、ご要望がありましたら下記にお問合せください。 PMI 日本支部 SDGs 担当(sdgs@pmi-japan.net)